

⑤ 第5委員会

「名古屋の文化を生かしたにぎわいのあるまちづくり」



それでは、第5委員会の意見を発表します。

第5委員会のテーマは、「名古屋の文化を生かしたにぎわいのあるまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、^{わたし}私たちは7月23日に名古屋^{じょう}城の施設^{しせつ}見学を行いました。そこで、^{わたし}私たちは400年以上前の天井^{てんじょう}などの重要文化財^{ざい}が残っているのを見ました。そして、戦争によって失われることがないように、後世にさまざまな名古屋^{じょう}城の財産^{ざいさん}を残していきたいと思います。

その後、^{わたし}私たちは施設^{しせつ}見学をしてわかったことや思ったことをもとに、「名古屋の文化を生かしたにぎわいのあるまち」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

私は、名古屋城の鹿に注目しました。お城には鹿が2匹いて、どちらも雌です。終戦時にもらったとのこと。私は、この鹿を使って名古屋城を盛り上げるようにするには、鹿をもう少しふやしたり、少し詳しく宣伝したりすると思います。また、奈良などみたいに餌をあげられる、触れ合えるなどと工夫すれば、サブテーマのとおり、にぎやかな感じになるのではないかと思います。鹿が名古屋にたくさんいると、珍しさがなくなってしまいますが、そこまでいないので、もってこいだと思います。

○子ども議員

私は、名古屋城を見学して、400年前のことを再現し、後の世代の人に伝えるのはとても大切だと思いました。名古屋城をもっと魅力的にするには、幾つかの工夫が必要だと思います。

一つ目は、当時を再現した城下町をつくり、名古屋の名物を販売することです。二つ目は、当時の衣装を貸して住人の気分を体験してもらうことです。三つ目は、お城の周りの緑やお堀の鹿をふやすことです。このような工夫があると、子どもからお年寄りまで、たくさんの人が名古屋城を楽しめると思います。

○子ども議員

^{わたし}私は名古屋を「名古屋の文化を生かしたにぎわいのあるまち」にするためには、もっと詳しく知ることがいいと思いました。

例えば、本丸御殿の天井などは格式により模様が違います。そのようなことを知るためには、それぞれの場所に音声ガイドを置くといいと思いました。そうすれば、外国人の方などいろいろな人が名古屋の歴史に興味を持ち、よりたくさんの方が集まると思いました。

○子ども議員

^{わたし}私は、名古屋城の鹿について発表します。第5委員会のテーマは、「名古屋の文化を生かしたにぎわいのあるまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、^{わたし}私は7月23日に名古屋城に行きました。そこで私は鹿を見ました。そして、和歌山城の鹿ということがわかりました。そして、テーマについてはもっと鹿をふやし、触れ合うことができる、もしくは鹿に餌などをあげることができる名古屋城に人がたくさん来て、にぎわいのあるまちになると思いました。

○子ども議員

名古屋城^{じょう}には、樹齢^{じゅれい}600年以上のカヤノキがあります。このカヤノキは、空襲^{くうしゅう}を免れ^{まぬが}元気に育つことのできた奇跡^{きせき}の木です。私は、このカヤノキのことを今回初めて知りました。近くにいても知らない名古屋の魅力^{みりょく}があるのだと実感しました。

このように、名古屋の文化にはたくさんの魅力^{みりょく}があります。この魅力^{みりょく}をたくさんの人に知ってもらえるように情報^{じょうほう}を発信していくことで、私は名古屋がにぎやかなまちになると思います。

○子ども議員

名古屋城^{じょう}の敷地^{しきち}には、600年前から立っているカヤノキがあります。私は、施設見学^{しせつ}でその存在^{そんざい}を知りました。この先も名古屋城^{じょう}を、そして私たち^{わたし}を見守ってくれると思います。

小さな子どももお年寄り^よも、元気な人も体の不自由な人も、名古屋城^{じょう}やこのカヤノキを見られるように、砂利^{じゃり}の一部^{くまいます}を車椅子やベビーカーが押しやすいバリアフリー^おにして、休憩^{きゅうけい}のできるベンチや誰でも使いやすいトイレなどを近くに設置^{せっち}し、この先、カヤノキの周りでいろいろな思い出がつくられたらいいと思います。

○子ども議員

僕は、7月23日に名古屋城の施設見学に行きました。そのとき、名古屋城の現状について説明を受け、名古屋城では季節ごとに催事があることを知りました。「尾張名古屋は城でもつ」と言われているように、名古屋城にたくさんの人を集めることが名古屋の文化を保つことになるとわかりました。名古屋城に名古屋の歴史・食・芸術など、多くあればいろんな人が楽しめる場所になると思います。楽しい催事について、学校や新聞、ニュースでもっと伝えたいと思います。

○子ども議員

名古屋城の見学をしたとき、お堀にいる鹿たちの話を聞きました。現在は、戦後に和歌山城からやってきた先祖を持つ2頭の鹿がいます。かつては50頭以上も繁殖していたそうですが、病気などで今の数になったそうです。名古屋城は名古屋のシンボルだと思います。現在も復元中の本丸御殿の作業を見学し、ますますそれを実感しました。

しかし、建物だけでなく、小さな生き物にも長い歴史があることを知り、とても感動しました。動物や昆虫、植物など、少し違った視点からも名古屋城と名古屋の歴史について小さな子やお年寄りまで楽しくわかりやすく発信し続けることで名古屋の文化が身近に感じられ、にぎわいが受け継がれていくのではと考えます。

○子ども議員

名古屋城^{じょう}にあるカヤノキは、600年前から立っていて、天然記念物になっているそうです。

僕は、それを今まで育ててきたことをすごいと思いました。僕は、カヤや名古屋城^{じょう}を守り続けるには、文化を守り続けることだと思います。そうすれば、名古屋が明るくにぎやかなまちになると思います。

○子ども議員

僕は、名古屋城^{じょう}を見学して今の名古屋城^{じょう}が文化を生かしたにぎわいがあるまちになるには、人々の多大な労力と努力が必要になると強く思いました。なぜなら、昭和20年、名古屋城^{じょう}は空襲^{くうしゅう}を受け、天守閣^{てんしゅかく}とともに全焼しました。しかし、当時の名古屋城^{じょう}の職員^{しよくいん}さんたちが貴重な品々^{きちよう}を一時疎開^{そかい}させていたことによって、その貴重な品々^{きちよう}は今も名古屋城^{じょう}に保管^{ほかん}されています。このように、名古屋を「文化を生かしたにぎわいのあるまち」にするには、後世によいものを残したいという思いが大切だと思いました。

○子ども議員

^{ぼく}僕は、名古屋をにぎわいのあるまちにするためには、名古屋^{じょう}城のすごいところを知ってもらうべきだと思います。なぜなら、名古屋^{じょう}城の文化を知って昔の日本がどのような生活を送っていたか知ってほしいからです。

外国では、日本見学の機会がもっとふえれば、日本の人々と外国の人々の交流がふえると思います。そうして外国人に日本のすごさを知ってもらい、日本各地を回ってくれ、名古屋にも来てくれると思います。そうなれば、名古屋はにぎやかなまちになると思います。

^{わたし}私たち第5委員会は、このようなことが名古屋を「名古屋の文化を生かしたにぎわいのあるまち」にするために必要だと考えました。

これで、第5委員会の発表を終わります。



■ 渡辺経済水道委員長の答弁

第5委員会の皆さん、本当に立派ですばらしい発表をしていただきました。ありがとうございます。第5委員会では、皆様方から発表があったように、「名古屋の文化を生かしたにぎわいのあるまちづくり」をテーマとして、名古屋をにぎわいのあるまちとするためにはどうすればよいかということで、この3日間、皆さんで考えていただきました。



1日目には名古屋城へ行き施設見学とともに、大変暑い中ではありましたが、ほかの委員会の皆さんはバスで移動でしたが、私たちは徒歩で移動ということで、バス代の節約ということもあって、皆さんには大変暑い思いをしていただきましたけれども、お疲れさまでした。

一生懸命に説明を聞いていただき、また活発な質問もしていただきました。そこで、400年以上前につくられた名古屋城本丸御殿の天井が戦争中は別の場所で保管されていたため、現在でも本物が残っていることを学び、また、名古屋城には樹齢600年以上になる大きなカヤノキがあり、市内で唯一となる国指定の天然記念物に指定されていること、また、お堀には多くの鹿がいたことなどを知り、本当にびっくりするとともに強く印象に残った子ども議員さんも多くいたと思います。

名古屋のまちは、古くから長い歴史を重ねてきたまちであり、皆さんの周りには世界に誇るべき大切な歴史的資源が残っていることを改めて発見していただいたというふうに思っています。皆さんが発表していただいた意見の中には、400年以上前の本丸御殿を復元して、後の時代に伝えていくということが大切だということの意見もありました。名古屋の文化を守っていくためには本当に多くの皆さんの努力があったこと

にも気づいていただきました。また、鹿をふやして奈良のように鹿に餌をあげられたりできればいいとか、バリアフリーの提案、さらには名古屋城に食や芸術などを集めるという提案や、外国の人などにもよく知ってもらうためのツアーや音声ガイドを提案してくれた子ども議員さんもいらっしゃいました。本当に多くのことに気がつき、素晴らしい提案をしていただいたことに私たち大人の議員も大変感動をさせられました。

今回、皆さんは3日間の子ども市会を通じて、名古屋を「文化を生かしたにぎわいのあるまち」とするためには、名古屋が誇る歴史や文化を未来につなげていくことや、魅力を世界に向けて発信していくことが大切であるというふうに気づいたと思います。

名古屋の歴史を未来につなげていくためには、私たち大人だけではなく、子ども議員の皆さんのように、世代を超えた多くの皆さんの協力が必要です。私たち大人もこれからは頑張ってみます。どうか皆さんも、大好きな名古屋を未来にわたって笑顔があふれるまちとするために、ここで学んだことを周りのお友達に伝えていただきたい、そして、大人の皆さんからお話を聞いたりすると、一緒に頑張っていただけなのかというふうに思いますので、よろしく願いをしたいと思います。

最後になりましたけれども、この第5委員会は子ども委員長、そして子ども副委員長を中心として11人の子ども議員の皆さんが本当に仲よく、そしてお互いに他人の意見を尊重し合い、自分たちのグループで意見をまとめあげた、本当に素晴らしい委員会だというふうに思っています。

皆さんと一緒にこの3日間、過ごせたことに感謝を申し上げ、この第5委員会を担当させていただきました斉藤たかおさん、そして鈴木孝之さん、そしてきょうはちょっと体調不良でお休みですけれども、彦坂先生ともども、また事務局の担当職員を代表いたしまして皆さんに感謝を申し上げつつ、答弁とさせていただきます。お疲れさまでした。